

教師ノート

週課	第二年 第一二課 第五週
単元	クリスマス
テーマ	神の愛
タイトル	クリスマスの愛
テキスト	第一ヨハネ4:9-11
参照箇所	ヨハネ3:16, 13:34、ローマ5:6-8、第一ヨハネ4:7-8, 12-13
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	第一ヨハネ4:9
AG 日曜学校教案参照箇所	
<p>ポイント1と2を特に強調することによって、クリスマスの子ども集会における伝道的なメッセージ、またはまだしっかり信仰告白をしていないおともだちを決心に導くメッセージを語るすることができます。またクリスチャンのおともだちにはポイント3を強調し、キリストの愛に答えて互いに愛し合う決心へと導きましょう。</p> <p>□導入 興味を起す質問をしましょう。</p> <p>例1:クリスマスは、パーティーやプレゼントだけを楽しむ日ではありません。本当のクリスマスの意味とはいったい何でしょうか？</p> <p>例2:いつも教会に来ているお友だちは、クリスマスは「イエスさまのご降誕」をお祝いする日だということを、よく知っているでしょう。でも、それは私たちのお誕生日をお祝いするのと同じ意味でしょうか？</p> <p>□ポイント1 クリスマスは、神さまが私たちに永遠の命を得させるために、イエスさまを送ってくださった日です(9節)</p> <p>9節にあるように、神が「そのひとり子を世に遣わし」てくださったのが、クリスマスです。そして、そのクリスマス(キリストの降誕)は、「私たちに命を得させ」るためと書いてあります。つまり、クリスマスがなかったら、私たちに命はないのです。クリスマスは、サンタクロースの日でも、単なるイエスの誕生パーティーの日でもありません。神が私たちに、永遠の命をくださるために、そのひとり子をこの世に遣わしてくださったことを感謝する日です。</p> <p>☞「キリストの受肉」を、はじめて教会に来るお友だちに伝えるための例話:あなたは、アリさんたちが一列になって進んでいるのを見てるとします。あなたは、その先にアリ地獄があるのを知っています。「おい、そっちに行ったら地獄だよ」と、あなたがどんなに大声を出しても、アリさんたちは理解できません。アリさんたちを助けるには、あなたが人間として生きることをあきらめ、アリになって、救われる方法を伝えるしかありません。あなたは、アリの子として生まれ変わってまで、彼らを地獄行きから救いたいと思いませんか？</p> <p>神の子(完全で聖い)が人間の子(不完全で罪深い)になるのは、人間がアリの身分になるよりももっと、ひどい屈辱的(ゴキブリになるくらい?)な格下げです。それでも神は、私たちが地獄に行かないように、イエスをこの世に遣わしてくださったのです。約2千年前のクリスマスに、こうして神の大きな愛が示されたのです。おかげで私たちは、いのち(永遠の命)を持つことができましたのです。</p> <p>□ポイント2 私たちが神さまを愛したのではなく、神さまの方から私たちを愛し、御子を遣わしてくださいました(10節)</p> <p>では、永遠の命とは何でしょうか？ 私たち人間はみんな罪(=汚い心)を持っています。心が汚いままだと、天国には入れません。しかし、きれいな心になれば、年をとってカラダが死んだ後も、天国で永遠に</p>	

幸せに生きることができます。これが永遠の命です。昔、ユダヤの国では、罪を犯す度に、それを赦していただくために、神に動物の命をいけにえとしてささげていました。しかし、2000年前に生まれてくださったイエス・キリストが、十字架でいけにえとなってくださったので、全人類のすべての罪は完全に赦されました。—ここでメッセンジャーは、全力で十字架を語りましょう—

クリスマスは「神が私たちが愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わ」してくださったことです。神の子キリストを信じれば、私たちの罪は赦され、真っ白でピカピカの心になり、天国行きのキップがもらえるのです。これが「救われる」ということです。10節にあるように、私たちが神を愛したのではなく、神が私たちが愛してくださり、御子を遣わしてくださったのです。イエスがこの世に遣わされたのは、神の一方的なあわれみの愛によるもの、つまり、神からの究極のクリスマスプレゼントです。あなたは、この永遠の命というプレゼントを受け取りたいですか？

☞ はじめて教会に来たお友だちに、「罪」について気づかせるための2つの質問：Q1「お父さん・お母さん・先生からウソをつくように教えてもらったことがある人は手を挙げてください」（いない）→Q2「今までにウソをついたことがある人は手を挙げてください」（全員）。だれにも教えてもらっていないのに、ウソをついたり、意地悪をしたりしてしまうのは、私たちにはじめから罪の性質があるからです。神から離れて、自分勝手に生きることの罪、その罪の結果として私たちはウソをついたり意地悪をしてしまったりするのです。

□ポイント3 神さまが私たちが愛してくださるように、私たちも互いに愛し合いましょう(11節)

クリスマスに、神は私たちに大きな愛を示してくださいました。私たちが救いたいという強い思いで、神がご自身の身分や命をもかえりみず犠牲を払ってくださったこと—クリスマスは神の愛そのものなのです。これほどまでの神さまの愛を受けた私たちは、もう罪を犯して神を悲しませてはいけません。イエスの命令どおり、互いに愛し合うべきです(ヨハネ13:34-35、15:12、15:17)。ひとりひとりみんなが、ありのまま愛されているのです。イエスの命と引き換えに買い取られたほどに、価値があり、大切な存在なのです。神さまが私たちが愛してくださったように、自分から相手を赦し、犠牲を払って助け合いましょう。神は目に見えませんが、私たちが愛し合うなら、それによって、あなたの家族やお友だちが、神の愛を見るのです(12節)。

□結論 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました—これがクリスマスに示された神さまの愛です。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1: まだイエスさまを信じていないお友だちは、イエスさまを信じて、永遠の命というプレゼントを受け取りましょう。あなたにとって、今年が本当のクリスマスとなりますように。信じてみたいと思うお友だちは、教会の先生と一緒に祈りをしましょう。まだよくわからないというお友だちは、続けて教会に来て、聖書のお話をもっと聞いてみよう。

例2: イエスさまを信じているお友だちは、クリスマスに示された神さまの愛に、もう一度心から感謝しましょう。まず、心をつくして神さまを愛し、そして互いに愛し合いましょう。

例3: クリスマスはパーティーやプレゼントの日ではなく、永遠の命に関わる大切な日だということを、みんなに伝えましょう。クリスマスにどんなステキなものをあげるより、究極のプレゼントのことを伝えれば、きっとみんなに感謝されるよ！